

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	114人	社会	114人	数学	114人
	理科	114人	英語	114人		

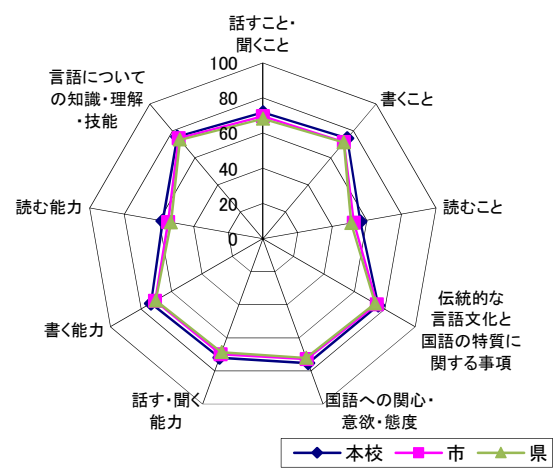
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.9	69.6	68.2
	書くこと	74.6	71.7	71.5
	読むこと	56.2	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	75.3	72.8	72.1
	話す・聞く能力	72.0	69.9	68.7
	書く能力	73.5	70.7	70.3
	読む能力	57.9	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	75.7	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

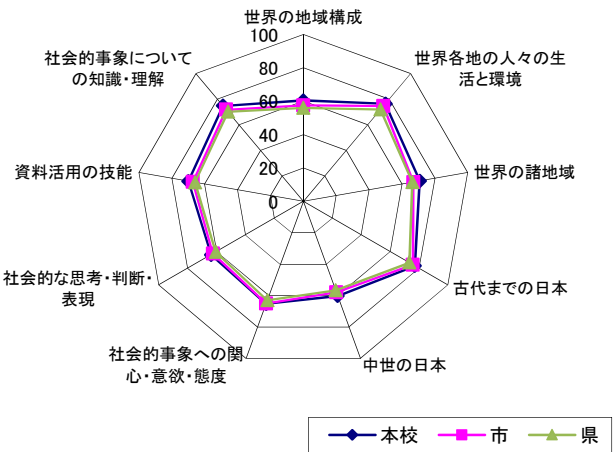
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を2.3ポイント、県の平均正答率を3.7ポイント上回った。 ○ 聞き手に理解してもらうための話し方の工夫や、司会者の工夫を聞き取る問題についての選択式の課題の正答率は、県の平均正答率を5ポイント以上、上回った。 ● 話の内容を正確に聞き取ることの選択式の問題と、話し合いの話題をとらえて、相手の発言を注意して聞くことについて記述式の問題についての正答率は、県の平均正答率は上回ったが、その差異は5ポイント未満であった。	「話すこと・聞くこと」については、「伝え合う力」の育成が指導のポイントとなる。そこで、「話すこと・聞くこと」の教材においてその力を育成するだけでなく、文学的教材等においても、自分の考えや気づいたことを伝え合う場面を意図的に設定し、「伝え合う力」の育成に取り組んでいく。
書くこと	市の平均正答率を2.9ポイント、県の平均正答率を3.1ポイント上回った。 ○ 指定された文字数で書くことや3段落構成で書くことについては、県の平均正答率を5ポイント以上、上回った。 ● 読み取った内容や自分の考えを明確にして書くことについては、県の平均正答率を上回ったものの、その差異は5ポイント未満であった。	「書くこと」については、指定された字数で記述したり、構成を考えて記述したりする力についてはついてきているので、今後は、文の組み立てを意識した語順や、表現技法などを身に付けることにより、分かりやすい文章を作成する技術を身に付けるよう指導していきたい。
読むこと	市の平均正答率を3.6ポイント、県の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ○ 文章の構成や展開をとらえることや登場人物の描写を比較して特徴を捉える問題については、県の平均正答率を5ポイント以上、上回った。 ● 文章の内容を整理することや、登場人物の心情を捉える問題については、県の平均正答率を上回ったが、その差異は5ポイント未満であった。	朝の読書の定着により、生徒の「読むこと」の楽しさは実感している。しかし、読む本のジャンルが偏ってしまう傾向があるため、より幅広いジャンルの本(文章)に触れるよう、助言していく。また、生徒同士の対話を取り入れた読解により「深い読み」の楽しさを実感させていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を0.9ポイント、県の平均正答率を2ポイント上回った。 ○ 漢字を読むことや文節の関係、仮名遣いを理解した古文の読みについては、県の平均正答率を5ポイント以上、上回った。 ● 小学校で学習した漢字を書くことについて、県の平均正答率を5ポイント以上、下回った問題があった。	漢字の学習については、継続的な取り組みが重要なので、引き続き定期的な漢字テストを実施していく。また、反復練習を通して漢字力の定着を図っていく。古文については、学習に抵抗を感じている生徒もいるため、音読を中心とした学習を意図的に取り入れ、古文に慣れ親しむ態度の育成に努めていく。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	60.5	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	76.5	74.6	71.9
	世界の諸地域	70.8	67.0	66.3
	古代までの日本	77.1	75.7	73.3
	中世の日本	60.2	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	65.2	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	63.8	62.5	60.5
	資料活用・技能	69.9	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	74.8	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

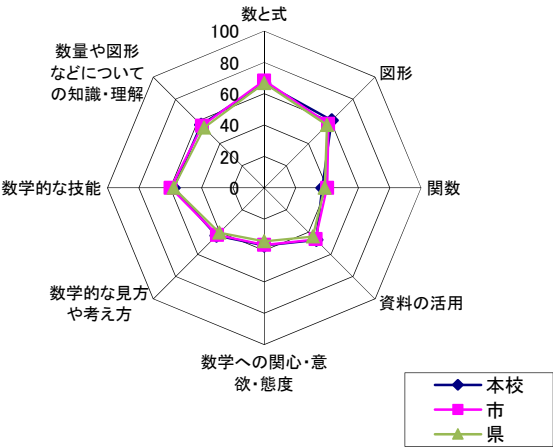
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○ どの問題も県の平均正答率を上回っている。中でも世界の地域区分の正答率は80%を超えている。 ● 緯度と経度の読み取りが苦手な生徒が見られる。また、地図の特色の説明の問題の正答率が39.5%となっており、地図の特色が理解できていない生徒が多い。	地図に関する基本的用語を確認させた上で、緯度・経度の読み取りを繰り返し行い、理解させる。世界地図それぞれの特色を把握させ、地図についての理解を深めていく。航空図・海図についても作業学習を行いながら、特徴をつかみ把握させる。
世界各地の人々の生活と環境	○ 3問とも70%以上の正答率を出しており、しかも、宗教分布に関しては、95%を超える正答率であり、宗教についてはよく理解している。 ● 雨温図の読み取りと気候帯の分布図の読み取りができていない生徒が見られる。	世界の気候の分布を白地図を使い作業を通して把握させる。各気候ごとに特徴を理解しながら雨温図の読み取り方を深めていき、人々の生活の様子についても気候と関連させながら学習していく。
世界の諸地域	○ 世界の地形に関しては、県の平均を6.9ポイント、世界の産業についても、県の平均を8.8ポイントと大幅に上回っている。 ● 西アジアや中央アジアの産業についての問題では、県の平均正答率を1.1ポイント下回っている。ヨーロッパ州の農業での資料の読み取りを半分の生徒ができていなかった。	アジアの学習を地域ごとに特色をつかみながら行い、違いの理由を考えさせ、判断力を高める。ヨーロッパの農業については、内容を種類ごとに理解させ、分布図を用い関連させながら学習を進めて理解を深める。 多くの資料を用い、資料は何を表しているのかなど、資料の読み取りの力を付けさせていく。また、資料を基にした話し合い活動を充実させた授業を展開し、思考力を育てる。
古代までの日本	○ 基礎的内容における短答・選択式設問での正答率が高かった。奈良時代の生活の様子は、4.9ポイントと県の平均正答率を上回っている。 ● 摂関政治の理解については、県の平均正答率を1.5ポイント上回っただけであった。日本と中国との関連では、県の平均正答率を0.9ポイント下回っている。	時代時代の政治の内容を、人物と関連させながら、具体的に把握させる。 多くの資料を提示し、たくさんの資料に触れさせるようにする。また、1つ1つの資料の読み取りに力を入れ、資料から考えられることを自分の言葉でまとめるようにさせ、思考・判断力を高めるようにする。
中世の日本	○ 中世の時代の北海道・沖縄の様子について、県の平均正答率を11.3ポイント上回っている。 ● 時代区分・武士の支配の広まりに関して、1.6ポイント1ポイントと県の平均正答率を下回っている。記述式の問題の正答率は県の平均を上回ったが低かった。	時代の流れを確認させ、理解させる。また、年代別に事柄をまとめさせ、流れとともに理解させる。 考え表現する言語活動の充実を図り、表現力を身に付けさせ、文章でまとめる活動を多く取り入れる。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.7	68.4	66.8
	図形	60.9	57.8	56.5
	関数	37.0	40.1	38.5
	資料の活用	46.9	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	36.8	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	43.1	42.5	40.5
	数学的な技能	57.8	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	56.8	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

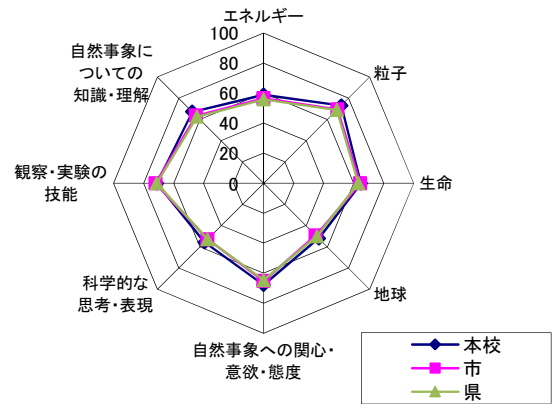
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	県の平均正答率とほぼ同じである。 ○ 1次方程式の文章題で、立式し、それを解く問題に対する正答率は、県の平均正答率を8ポイント上回っている。 ○ 文字式において、文字を使って数量を表したり、関係を等式に表す問題に対する正答率は、県の平均正答率を3ポイント程度上回っている。 ● カッコのある1次式の減法の問題に対する正答率は、県の平均正答率を10ポイント下回っている。	四則計算、分数を含んだ計算などの基本的な計算問題では、県と同程度の正答率である。しかし、不注意によるミスを繰り返す生徒も多いため、繰り返し学習を進めることによって、定着、安定を図りたい。計算問題や分配法則で、負の数が関わる問題が苦手である生徒が多く見られるので、授業の中で確認し、注意を促しながら符号に対する意識を高めさせると共に定着させたい。 文字式で数量関係を表す問題や、方程式の立式の問題では、多くの問題に取り組ませながら、応用力も培っていききたい。
図形	県の平均正答率を4ポイント上回っている。 ○ おうぎ形の面積を求める問題の正答率は、県の平均正答率を7ポイント上回っている。 ○ 三角錐の投影図に関する問題の正答率は、県の平均正答率を7ポイント上回っている。 ○ 柱体と錐体の体積についての問題の正答率は、県の平均正答率を6ポイント上回っている。 ○ 回転体の形に関する問題の正答率は、県の平均正答率を5ポイント上回っている。 ● 垂直二等分線の作図に関する問題の正答率は、県の平均正答率を3ポイント下回っている。	作図の問題については、実際に作図をさせながら、それぞれの性質をしっかりと理解させたい。また、垂直二等分線や角の二等分線などを応用問題に生かしたり、日常生活の中に見いだすことができるようにしたい。 平面図形の面積、空間図形の表面積や体積の求め方については、よく理解できていると思われるので、問題のいろいろなパターンに慣れさせたい。 投影図や回転体など、空間図形をイメージすることは比較的得意であると思われるので、空間図形の直線と直線、直線と面、面と面の関係についても同様に考え、頭の中でイメージして考えられるようにしたい。
関数	県の平均正答率を1ポイント下回っている。 ○ 関数について理解しているかどうかの問題に対する正答率は、県の平均正答率を2ポイント上回っている。 ● 与えられた式から比例の関係をみいだす問題についての正答率は、県の平均正答率より5ポイント下回っている。 ● 比例の式から比例のグラフを書く問題では4ポイント、反比例のグラフと式の関係についての問題では2ポイント、県の平均正答率を下回っている。	1次関数の学習で、比例は1次関数の特別な場合であることを意識させ、両者の関わりを大切にしながら学習を進めさせたい。 式の値や、～について解く、変域などの既習内容が深く関わってくるので、その都度内容の理解を確認しながら学習を進めていく必要がある。 反比例については、変化の様子は比例との共通点(反対)があるものの、そのほかについては比例とは異なることをしっかりと意識させ、式やグラフについての学習を定着させたい。
資料の活用	県の平均正答率を3ポイント上回っている。 ○ 度数分布表から、階級の相対度数を求める問題に対する正答率は、県の平均正答率を10ポイント上回っている。 ○ 階級の幅について理解しているかどうかの問題に対する正答率は、県の平均正答率を19ポイント上回っている。 ● ある数の真の値の範囲を不等号を使って表す問題に対する正答率は、県の平均正答率を10ポイント下回っている。	度数分布表やヒストグラムの特徴をしっかりと理解させていきたい。度数分布表を作ったり、階級を設定すること、相対度数を求めることなどに対する正答率は高かったため、日常生活の資料を使って、それらを実際に活用していく場面を設定したい。また、新しいことばも多く出てきているので、それらの内容も整理して覚えさせたい。 有効数字に関する意識や理解度が低いと思われるので、日常生活で実際に使われている例を示しながら、身近なものにとらえさせたい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	58.9	56.6	55.8
	粒子	73.2	69.6	69.0
	生命	64.8	64.4	63.0
	地球	52.0	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	67.8	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	55.7	52.8	52.8
	観察・実験の技能	71.0	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	67.3	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

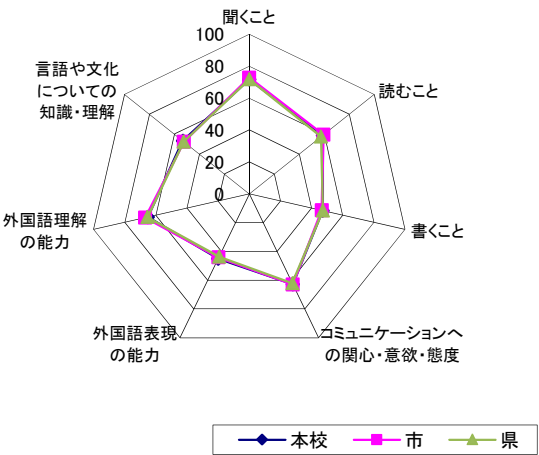
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○ 全体的に県の平均正答率を上回っているが、特に「力と圧力」については、力を矢印で示す設問は11.5ポイント、ばねを指で引いたときの力の大きさについては6.2ポイント上回るなど高い理解を示した。 ● グラフについての設問について、県の平均正答率に対して4.7ポイント下回った。	県や市と比べて知識・理解の達成度は十分だが、実験結果を示したグラフの読み取りについては課題がある。実験結果をまとめる際には各自でグラフを作成し、時間をかけてそのグラフが示すことを確認するなど重点を置いて指導したい。また、数学科とも連携して子どもたちの苦手意識を取り除くよう指導したい。
粒子	○ 県の平均正答率を4.2ポイント、市の平均正答率を3.6ポイント上回るなど高い理解度を示した。特に「水溶液の性質」と「物質の状態変化」については、県の平均正答率を大きく上回った。 ● 「水溶液の性質」と「物質の状態変化」に比べて「気体の性質」についての理解度はあまり高くなかった。	全体的に達成度は高かったものの、気体の性質についての理解度は十分ではなかった。液体や固体に比べて気体は目に見ることはできず、その性質やイメージを理解するのが難しいことが原因と思われる。 実験を丁寧に行い、その都度気体の性質や発生方法について確認するとともに、模式図などを活用し、気体の反応についての理解度を高めていきたい。
生命	○ 県の平均正答率を3.0ポイント、市の平均正答率を0.6ポイント上回った。また、「植物の分類」については各設問で8ポイント県の正答率を上回った。 ● 「植物のからだのつくりとはたらき」については各設問9ポイント以上県の平均正答率を下回った。	植物の分類については高い理解を示したが、植物のからだのつくりとはたらきについては理解が不十分である。植物のからだはどのような仕組みで生命をつないでいるのか、動物やヒトとはどのような違いがあるのかなど、2年生の動物の学習の中でも植物のからだの仕組みや構造に触れ、理解を深めていきたい。また、日常的にも植物に目を向け、興味を持たせるよう指導したい。
地球	○ 県の平均正答率を1.8ポイント、市の平均正答率を2.8ポイント上回った。また、断層について問う問題では10.4ポイントと大きく県の平均正答率を上回った。 ● 化石から地層堆積当時の環境や年代を推定する問題については、県の平均正答率を4.6ポイント下回った。	他領域に比べて全体的に理解度に課題がある。地球の分野については、1年生の地層や岩石の内容について問題演習や解説を丁寧に行うなどして理解度を深められるよう努力したい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.7	72.8	71.8
	読むこと	58.9	59.4	57.5
	書くこと	47.2	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	62.8	63.0	62.2
	外国語表現の能力	45.0	44.2	43.6
	外国語理解の能力	65.2	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	53.2	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「対話文の応答」における「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる(だれかとたずねられて)」の問題に関しては、正答率が79.8%であり、市の平均正答率を9.1ポイント上回った。 ●「対話文の応答」における「対話の内容を聞き取り、絵をもとに英語で答えることができる」ことをねらった問題では、正答率が25.9%であり、市の平均正答率を7.1ポイント下回った。	日常的な場面における英語の表現に関しては、対話の応答についても理解が得られているようである。同様の場面を設定し、対話する活動を取り入れることを意識した授業づくりをしたい。 聞き取った内容をもとに回答するだけでなく、イラストや図のような視覚情報と重ねて回答するような「聞くこと」の学習を取り入れていきたい。
読むこと	○「語形・語法の知識・理解」や「長文の読み取り」に関しては、ほとんどの問題で市の平均正答率を上回った。 ●「さまざまな英文の読み取り」では、すべての問題で市の平均正答率を下回った。特に、「対話の流れとポスターから、適切な語の組み合わせを選ぶことができる」に関しては、正答率が58.8%であり、市の平均正答率の64.5%を大きく下回った。	語形や語法については理解しているので、その知識を使って、長文を読めるよう指導していきたい。 「聞くこと」と同様に、対話の流れやイラストを参考に問題を解くことについて正答を得られない生徒が多い。文章のみの長文を読むだけでなく、グラフやイラストといった、視覚情報から読み取れることを意識した問題を取り入れて授業を行いたい。
書くこと	○「並べかえによる英作文」や「3文以上の英作文」では市の平均正答率を上回っているものが多かった。特に、「3文以上の英作文」においては、「第1文に、自分がよく行く場所を紹介する文が書かれている。」「いずれかの文に、自分がよく行く場所やよく行く理由が書かれている」「テーマにそって、3文以上で書かれている」問題の正答率は56.1%、64.5%、52.2%であり、いずれも市の平均正答率と同等かそれ以上であった。 ● 未回答率が16.7%であり、作文に取りかかれていない生徒がいる。	「書くこと」に関して抵抗をもっている生徒がいる。授業の中で簡単な英作文をする活動を取り入れ、書くことに対する抵抗を減らし、英作文に取りかかれるようにしたい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

(1)学習について ①家庭学習 ○「家で自分で計画を立てて学習している」「家で学校の宿題をしている」「家で間違えた問題について勉強している」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、市や県の割合を上回っている。 ●「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は市や県の割合を下回った。 *学級活動での指導を通して、予習・復習の大切さを理解させ、改善を促す。 ②学習時間 ○平日「2時間以上」と回答している生徒の割合は、37.1%であった。 ●学校園で定めている平日「3時間以上」と回答している生徒の割合は、9.5%であった。 *生徒が各自で取り組んでいる自主学習ノートを継続的に取り組ませるよう支援し、また、効果的な活用方法を指導することを通して、学習習慣の確立や学習内容の定着を図る。 (2)読書について ・1ヶ月の読書量 ○「5冊以上」と回答している生徒の割合は、31.1%と市や県の割合を上回った。 ●図書委員からの呼びかけや「図書館だより」及び授業を活用し、読書の面白さや様々なジャンルの本を紹介することで、読書への意欲を喚起する。 (4)宿題について ○「宿題はやりたくなる内容だ」「宿題は自分のためになっている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ50.8%、90.5%と市や県の割合を上回った。 ●「宿題の量はちょうどよい」と回答している生徒の割合は75.9%で、市や県の割合を下回った。 *宿題の量について、もの足りなさを感じている生徒について、自主学習の仕方をアドバイスすることで充実した家庭学習に取り組めるよう促す。 (5)学ぶ意欲について ○「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることもある」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」について、肯定的な回答をしている生徒の割合はそれぞれ80%以上であり、市や県の割合を上回った。 ●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」について肯定的回答している生徒の割合は、66.4%であり、市の割合を下回った。 *生徒の疑問を授業の学習課題にするなど、生徒の思いを生かした授業を構築していきたい。	
(6)学校での様子 ○「授業を集中して受けている」「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」「学校の決まりを守っている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は90%以上であり、市や県の割合を上回った。また、「自分はクラスの役に立っている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、72.5%で、市や県の割合を上回った。 *「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」について、より高い割合が肯定的回答ができるように、役割分担や活動後の賞賛を今後も続けていきたい。 (7)自分自身のこと ○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」「自分も持っている能力を十分に発揮したい」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は90%以上であり、市や県の割合を上回った。 ●「将来の夢や目標をもっている」に「はい」と回答した生徒の割合は、48.3%であった。 *キャリア教育に関わる授業を通して、将来についての希望や見通しを生徒一人一人が作れるようにする。	

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○ 計画的な小中一貫教育の推進	・ 小中学校で連携した学習指導の充実 学校園授業コンセプトの定着・充実	・ 「教職員は、わかりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」、「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて適切な支援を行っている」、「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」に対する肯定割合が高い。(教職員)
○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・ 授業力の向上 一人1授業の公開と校内研修の充実	

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語科では、「読み取った内容や自分の考えを明確にして書くこと」、「文章の内容を理解することや登場人物の心情をとらえる」問題に対する正答率が低い。 英語科では、「対話の内容を聞き取り英語で答えること」、社会科では「地図の特色を説明する」問題に対する正答率が低かった。	主体的、対話的に授業に取り組む生徒の育成を目指し、「考える力を育む言語活動の充実」について研究を進める。	・ 授業に「学び合い」の場面を取り入れることにより、一人一人が考え表現する機会を増やす。 ・ 一人1授業公開では、各教科・学年に応じた授業を公開し、また、その授業を参観することによって、教員の授業力向上へとつなげていく。 ・ 読書の時間を確保することによって、生徒の感受性や言語能力の向上につなげていくとともに、落ち着いた学習に取り組む素地を養う。